【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第１部門第２区分
【発行日】平成22年7月22日(2010.7.22)

【公開番号】特開2009-39285(P2009-39285A)
【公開日】平成21年2月26日(2009.2.26)
【年通号数】公開・登録公報2009-008
【出願番号】特願2007-206941(P2007-206941)
【国際特許分類】
Ａ６３Ｆ　7/02　(2006.01)
【ＦＩ】
Ａ６３Ｆ　7/02　３０９
Ａ６３Ｆ　7/02　３０８Ｇ
Ａ６３Ｆ　7/02　３３４

【手続補正書】
【提出日】平成22年6月4日(2010.6.4)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
発射ハンドルの回動操作によって遊技球を発射する発射装置と、前記発射装置の動作を制御する発射制御装置と、を備える遊技機において、
前記発射ハンドルは、前記遊技機に連結するベース部と、前記ベース部と隙間を挟んで対峙し、前記ベース部に回動可能な回動部とを有し、
前記ベース部は、
当該ベース部のうち前記隙間を挟んで前記回動部と対峙する部分の表面に設けられた発光源と、
導電性を有するベース側導電部が形成されるとともに前記発光源の光を反射させる反射部と、を有し、
前記回動部は、前記回動部のうち前記隙間を挟んで前記ベース部と対峙する部分の表面を導電性とする回動側導電部を有し、
さらに、前記遊技機は、前記ベース側導電部と前記回動側導電部とが通電したことを検出する導電検出部を有し、
前記導電検出部が、前記ベース側導電部と前記回動側導電部とが通電していることを検出した場合に、前記発射制御装置は、前記発射装置による遊技球の発射を停止することを特徴とする遊技機。
【請求項２】
前記ベース側導電部と接続された第１回路素子と、前記回動側導電部と接続された第２回路素子と、を有し、
前記ベース側導電部と前記回動側導電部とが通電した場合に、前記第１回路素子と前記第２回路素子とが接続され、
前記第１回路素子又は前記第２回路素子には所定の電圧が印加されており、
前記導電検出部は、前記第１回路素子又は前記第２回路素子の一端の電圧の変化によって、前記ベース側導電部と前記回動側導電部との通電を検出することを特徴とする請求項１に記載の遊技機。
【請求項３】

前記第１回路素子は第１コンデンサであり、前記第２回路素子は第２コンデンサであり、
前記ベース側導電部と前記回動側導電部との通電を検出した場合に、前記ベース部と前記回動部との隙間に挟まれる導電性部材を介して、前記第１コンデンサと前記第２コンデンサとが接続されるように、前記第１コンデンサと前記第２コンデンサとが配置されており、
前記導電検出部は、前記第１コンデンサと前記第２コンデンサとの合成容量の増加によって、前記検出される電圧が変化した場合に、前記ベース側導電部と前記回動側導電部との通電を検出することを特徴とする請求項２に記載の遊技機。
【請求項４】
前記遊技機は、遊技者が前記発射ハンドルに触れたことを検出するタッチセンサを有し、
前記発射制御装置は、前記タッチセンサによって遊技者が前記発射ハンドルに触れたことを検出された場合に、前記発射装置の発射を許容し、
前記回動部は、前記回動側導電部を露出させることにより、前記タッチセンサのタッチ電極とすることを特徴とする請求項３に記載の遊技機。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００６
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０００６】
第１の発明は、発射ハンドルの回動操作によって遊技球を発射する発射装置と、前記発射装置の動作を制御する発射制御装置と、を備える遊技機において、前記発射ハンドルは、前記遊技機に連結するベース部と、前記ベース部と隙間を挟んで対峙し、前記ベース部に回動可能な回動部とを有し、前記ベース部は、当該ベース部のうち前記隙間を挟んで前記回動部と対峙する部分の表面に設けられた発光源と、導電性を有するベース側導電部が形成されるとともに前記発光源の光を反射させる反射部と、を有し、前記回動部は、前記回動部のうち前記隙間を挟んで前記ベース部と対峙する部分の表面を導電性とする回動側導電部を有し、さらに、前記遊技機は、前記ベース側導電部と前記回動側導電部とが通電したことを検出する導電検出部を有し、前記導電検出部が、前記ベース側導電部と前記回動側導電部とが通電していることを検出した場合に、前記発射制御装置は、前記発射装置による遊技球の発射を停止することを特徴とする。
【手続補正３】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１０
【補正方法】削除
【補正の内容】
【手続補正４】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１１
【補正方法】削除
【補正の内容】
【手続補正５】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１２
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１２】
第１～第３の発明によれば、導電検出部が、ベース側導電部と回動側導電部とが通電し

ていることを検出した場合に、発射制御装置は、発射装置による遊技球の発射を停止するので、遊技者が発射ハンドルの回動部とベース部との隙間へのコイン等の挿入による不正を検出でき、不正遊技の続行を防止できる。

さらに、ベース部が反射部を有するので、発光源の光を反射でき、発射ハンドルの装飾性が向上する。また、反射部をベース側導電部として利用できるので、わざわざベース側導電部を設けなくてもよいため、製造コストを削減できる。

【手続補正６】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１４
【補正方法】削除
【補正の内容】
【手続補正７】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１５
【補正方法】削除
【補正の内容】
【手続補正８】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００７９
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００７９】

これによると、わざわざ導電性材料を新たに設ける必要はなく、反射部材２５４に施していたメッキ処理を前記隙間に対峙する部分の表面にも施すだけなので、製造コストが削減できる。